

令和2年度（2020年度）第2回南区まちづくり懇話会 会議録

1、日時 令和3年（2021年）3月23日（火）午後2時～4時30分まで

2、場所 アスパル富合研修室

3、出席者 計29名

・南区まちづくり懇話会委員 14名

前出委員、榊田委員、吉本委員、平井委員（副会長）、村山委員、正木委員、島田委員、永井委員、堀川委員、土井委員、柴田委員（会長）、北岡委員、宮崎委員、（栗田委員代理）正源司氏

・事務局（熊本市職員） 15名

南区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、保健子ども課長、福祉課長、南区管内まちづくりセンター所長（6名）、総務企画課職員（3名）

4、配布資料

・次第

・資料1 令和2年度南区まちづくりの取り組み（A3版）

・資料2 令和2年度南区まちづくり推進事業 実績報告

・資料3 令和2年度南区復興支援自治推進事業 実績報告

・資料4 令和3年度南区まちづくりの取り組み（A3版）

・資料5 令和3年度南区まちづくり推進事業 計画案

・資料6 令和3年度南区復興支援自治推進事業 計画案

・参考資料① コロナ禍でのまちづくりについて

・参考資料② 次年度のまちづくり推進事業について

5、内容

(1) 開会

(2) 区長挨拶

(3) 意見交換

①令和2年度南区まちづくり推進事業及び南区復興支援自治推進事業の実績報告について

②令和3年度南区まちづくり推進事業及び南区復興支援自治推進事業の事業計画について

(4) その他

(5) 閉会

6、意見交換会議録

①令和2年度南区まちづくり推進事業及び南区復興支援自治推進事業の実績報告について

【資料1、資料2、資料3に沿って事務局から説明】

柴田会長：当初予定していた事業の半分か半分以上が中止ということになっていて、一方で何とか工夫して実施出来た事業もありました。各まちづくりセンターの取り組みが結構工夫されていて、なかでも面白いなと思ったのが、資料2の22番「まちづくり地域活動支援事業」で幸田まちづくりセンターがオンラインで防災塾を開催したというのがありましたが、これは具体的にはどんな感じだったかというのを教えていただければと思います。

事務局：公民館の調理室を利用して、そこに講師となる地域担当職員と保護者と子どもの代表者の方に来ていただき、それ以外の方については各自ご自宅等でラインの画面を見ながら、同時にパッククッキングを行いました。その中で、防災に関するクイズ等も出題し、子ども達にも飽きがないような時間の過ごし方を工夫しました。パッククッキングは上手にできた子どもさんもしれば、なかなか思ったようにいかなかった子どもさんもいましたが、そういった意識を持っていただくという意味で今回の取り組みに関してはよかったかなと思っております。以上でございます。

柴田会長：ありがとうございます。具体的には、参加者はスマートフォンをみながら参加しているということで考えていいのでしょうか。

事務局：はい。ラインのビデオ通話を利用しましたので、ほとんどの方がスマートフォンを見ながら参加されたと思います。

柴田会長：パッククッキングというのはビニール袋を使って湯煎で作るようなものでしょうか。

事務局：メニューはカレーライスで、お米は災害時に使用するアルファ米、カレーは密封式のビニール袋の中に材料を入れて、それをお湯で温めて作るというものです。

柴田会長：ありがとうございます。おそらく親子連れなのでスマートフォンを使い慣れている世代なので、そういった意味ではこういったオンラインでの実施は可能性がある実施方法だなと感じました。

榑委員：5番「防災まちづくりリーダー育成事業」で研修会がありますが、研修会は80名の方を予定されており、この研修で非常に知識が豊富になれると思うのですが、もうひとつステップアップして、研修会に参加された人、もしくはそれ以外の人で防災士の資格をチャレンジしたいということになれば、更に内容が濃くなるのではないかと思います、そういったことがこの中で実施される予定であったかどうかお尋ねしたいのですが。

事務局：防災士の皆様に講座の講師を務めていただくよう計画してきたところで、今年度は中止になりましたが、来年度は、防災士と密着、連携、活用させていただきながら、取り組んでまいりたいと思っております。

柴田会長：これは防災士の資格を取ってもらうような講座ではなかったということでしょうか。

事務局：防災士の資格というのは熊本県で実施されていまして、熊本市では取ることはできませんので、興味を持っていただいて、チャレンジをしていただくということは可能かと思いますし、そちらに繋げていきたいと思っております。

柴田会長：ありがとうございます。ほかにご意見いかがでしょうか。

宮崎委員：今回の実績を見ましたが、やはり全体的にまちづくりセンターが頑張られたのかなど。コロナ禍でも中止にせず、コロナ禍に合った工夫をされてるなと感じました。さすが地域担当職員を置いているだけあるなと感じたところですが、先ほどの5番「防災まちづくりリーダー育成事業」で、仮に開催がされたとして、参加された方々というのは、今後こういった形で地域のまちづくりの防災リーダーとしてやっていかれるのか、スキーム的なものがもしあれば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

事務局：この研修は、自治会役員の方を中心に行っておりまして、自治会の中には自主防災クラブを結成されているところもございます。そういったチームを作っただきながら、来年度におきましては、防災士を含め、地域のリーダーとして、自主防災クラブの育成をさらに強化していきたいと考えております。避難所運営委員会もごさいますが、どうしても地域の自治会は自主防災クラブが中心となるかと思っておりますので、その連携、強化をしていきたいと考えております。

宮崎委員：おっしゃるとおりで、せっかくそういうきっかけを与えられた方のご活躍の場が

ないというのはずっと気になっていたところですので、そこに住んでいる方が自主防災を考えるきっかけとして実際に行動できる受け皿づくりをぜひお願いしたいなと思います。

22番「地域のまちづくり担い手育成事業」は幸田まちづくりセンターの事業になるかと思うのですが、この中で「コロナに負けるな食べて応援プロジェクト」というものがございます。こちらは、写真でしか拝見していないのですが、かなり手が込んだポータルサイトを作られていて、また、その他の花のまちカフェとか、その地域のの方がまちづくりに積極的に参画していったようなイベントなどがあるのですが、この事業はどういう人たちが実施されているのでしょうか。これは本当にすごいなと思いました。

事務局：今回の食べて応援プロジェクトに関しましては、昨年の5月頃からコロナ禍で外食が難しい中、飲食店を応援する企画ということで、幸田まちづくりセンターにサポーター登録されている方たちが提案され、サポーターの自主事業として立ち上げられたものです。こちらのポータルサイトの立ち上げに関しましては、個人サポーターの方が委託を引き受けてくださって、運営いただいております。この取り組みに関しましては、幸田まちづくりセンターでも色々なところで情報発信していくような形で応援させていただいております。

宮崎委員：本当に素晴らしい取り組みだなと思いました。まちづくりサポーターというひとつの受け皿があって、そこにまちづくりセンターの方がアプローチだったりとか、逆にサポーター側から飲食店支援の事業をしたいとか、連携や意見交換があったからできたと思います。ですので、ぜひこのまちづくりサポーターを幸田まちづくりセンターだけでなく、他のまちづくりセンターでもやっていただけたら、地域の人材発掘にもなるでしょうし、動ける人達を見つけるという意味でも、非常に先進的な取り組みだと思いました。

柴田会長：まちづくりサポーターは幸田まちづくりセンターだけの取り組みでしょうか。他のまちづくりセンターでは似たようなことを実施されていないのでしょうか。

村上区長：幸田まちづくりセンターで行っているまちづくりサポーターというのは、熊本市内域でも珍しいパターンで、企業のご協力をいただきながら、来年以降、南区については各まちづくりセンターに広げていこうかなと考えているところです。そのなかで、やはりやるとしても、我々が求めることと、地域の方が求められることは、各地域で差がでてくるものですから、それに沿った形で、こういった形でやっていけるのかというのを考えながら、地域の特性にあった形でのサポ

ーター制度を作ればと。将来的には南区内の全まちセンがやっていきますよと、自助共助でご協力をいただきながら取り組んでいきたいと思っているところです。来年度の新規事業で南区内の6まちづくりセンターと一緒に事業を行うという新しいパターンの取り組みがあったかと思いますが、そういったものをきっかけにしながら、結びつきを強くするような形を作って取り組んでいければと考えております。

柴田会長：私も広げていくととてもいいなと思います。各地域に合った形でと区長におっしゃっていただきました。それはとても重要なことだと思いますので、場所によっては自治会が中心になったほうがいいところもあったりすると思いますし、名前を出して申し訳ありませんが城南ワンダホーに頑張ってもらった方がいいとかやり方は色々あると思います。そういったものを各地域で模索しながら、工夫していくというのがとても重要ななと思いました。

土井委員：私からは12番「家庭訪問型子育て支援事業」がすごくいいなと思ひまして、このコロナ禍でこれはとても重要視しなければいけないことだと思います。養成研修が中心になっていますが、フォローアップでこれまでの方達が活動されていると思いますが、その状況ですとか、またその養成研修が止まってしまうと、支援員も減ってしまうと思うので、今後の方針とかあれば教えていただきたいなと思います。

事務局：こちらの「家庭訪問型子育て支援事業」につきましては、今回コロナ禍で、訪問支援員のフォローアップ研修、それと訪問支援員の活動の手法について年度の途中からLINEやリモートによる手法も含めて、できるだけコロナ禍であるからこそ支援を求めているご家庭もあるということですので、今までは直接の訪問だけで支援をおこなっておりましたけれども、今後は支援を広げる意味でも新たな手法を用いながらこの活動や支援を行っていきたいと思っているところで、その動きは今年度途中から来年度にかけて取り組んでいきたいと考えております。

土井委員：今年度、例えばこういった活動をしましたということで、言える範囲でなにかあればお聞きしたいです。

事務局：リモートでやれる範囲と、できないこととありまして、できる限り対象者の方と支援員の方がやり方を確認し合って、直接の家庭訪問とリモートでできる分野を相互で確認しながら進めていくということが重要ですので、そこは両者できちんと理解し合って、活動の幅を広げていきたいと考えております。

柴田会長：今とても重要なことをおっしゃっていただいたと思います。対面でできることと、リモートでできることを仕分けながらやっていく、これからのまちづくりにとっても重要な点かと思います。土井委員から子育てなどの部分で、参考になるような事例があればご紹介いただきたいのですがいかがでしょうか。

土井委員：私も模索中ではあるのですが、確かにリモートと対面とで、当事者と支援する側で話し合っただけで進めていくというのはすごくいいなと思って、本当にその方が使えるツールであったり、その環境を見ながら、この人には実際訪問するとか、ただただポストに何が入っているかを観察するとか、それも地域で一緒に暮らしている人しかわからないこともあると思うので、そういったことを見ながら支援の方法を見極めていくということかと思っています。

柴田会長：おそらく同じことが高齢者の見守りとも共通してくると思いますし、このコロナ禍での1年間の経験を、来年度の様々な取り組みに活かしていけるのではないかと思います。私が最初にご質問させていただいた防災塾はもっとも典型的というか、わかりやすいものかと思っています。SNSは高齢者が使いづらいものも多々あるわけで、誰でもできる方法ではないわけですが、非常に有効なツールでもありますので。ほかにご意見がございますでしょうか。

北岡委員：私は南区に住んでいるのですが、17番「幸田さるいて守る事業」の取り組みの中で、ウォーキングに参加した人に腕章を配って、犯罪の抑止力にしているということが書かれていますが、これは限られた人じゃなくて、地域の人達全体に広げることにはできないかなと思っています。さらに、南区全体に広がってほしいなと思っています。どうしてかという、これは通常の活動の時は仕事で参加できないという人も、腕章を一つ持っていれば、散歩やウォーキングをすることで、地域の安心安全が確保されるならばとてもいいことじゃないかなと思います。しかし、限られた方に腕章を配るとなると、ちょっとどうかという感じがしましたので、この部分は検討をお願いしたいと思っています。

柴田会長：腕章のデザインも含めて、幸田まちづくりセンターからご説明いかがでしょうか。

事務局：幸田まちづくりセンターです。本日腕章をお持ちすればよかったのですが、デザインとしては黄色をベースとして、マジックテープで腕にはめていただくものとなっております。反射テープ等も活用しまして、少し暗くなった際にも安心してウォーキング等していただけるように作成しました。今回の取り組みといたしまして

は、まずはウォーキングを趣味にしている方であったり、防災に携わられている方だったり、そういった方達にお声がけをして、歩きながら自分たちの地域をお守りいただくということで、少しずつ広めていけたらと思っております。そういった方に腕章をはめていただくことで、先ほども申し上げましたように、犯罪の抑止力であったり、お住まいの方に安心安全を感じていただけるようにしていきたいと考えておりますので、徐々にではありますが、広げていけるような取り組みに繋げていきたいと考えております。

柴田会長：ありがとうございます。ほかにご意見がございますでしょうか。

正木委員：10番「南区避難所運営訓練（実践編）」ということで、コロナ禍の中で実施が難しいので、どのくらいの規模でどのようにするのか、地域に周知しながらどのように訓練を実施されるのかなと思いました。

事務局：こちらの訓練につきましては、当初避難所運営委員を集めて行う予定でございました。しかしコロナ禍でもあり、台風10号のような大きな災害も今後発生するということが予想されますので、災害対応力の強化を図るということで考えたところです。大きくはできませんでしたが、避難所担当職員に向けて、マンホールトイレの使い方を勉強してもらって、次回、避難所運営委員会の皆様と確認をする際に、すぐ対応できるように準備をしたところでございます。

柴田会長：この訓練は来年度の実施予定はないのでしょうか。

事務局：来月、4月第3土曜日に訓練が決まっておりますので、それに向けて今準備させていただいております。

柴田会長：7月の豪雨災害の時もそうでしたが、避難所がコロナ対策を取ったことで、避難所の環境はとても改善されました。熊本地震の時は密集状態で、体育館に雑魚寝していたのが、整然と人数管理され避難することができて、環境がとても改善されたと思っているのですが、ぜひコロナ対策を含めた訓練だといいなと思いません。それはいかがでしょうか。

事務局：来年度行われる実動訓練は、全体で共通の項目がございますので、全市的に行う訓練と、南区が独自で行う訓練を実施いたします。ただ、時間的に半日という制限された時間になりますので、避難所を直接開設してというところまでの訓練は行いませんので、まちづくり推進事業の中でも、ほかの避難所訓練を含めたところで計画

をしていきたいと考えております。

前出委員：私も飽田東小学校の避難所運営委員をしております。先日、このコロナ禍の中で、役員で集まって、防災倉庫の整理だとか、それと各自治会長さんにも集まっていたいただいて、意見交換とか、マンホールトイレの使い方も説明していただきました。このようなコロナ禍の状況でもできるということは、貴重な体験だと思います。

柴田会長：そうですね、人数を減らせばできるので、人数を減らして回数を増やせばいいので、それも一つの工夫だと思います。密にならなければいいということかと思えます。貴重なご意見ありがとうございました。では、久しぶりの開催なので、全員から一言ずついただければと思います。吉本委員いかがでしょうか。

吉本委員：17番「幸田さるいて守る事業」ですが、わたしも結構ウォーキングをされていて、ぜひ参加したいな思いました。さっき同じことを提案されていたので、同じ考えです。

柴田会長：もっとみんなが腕章を付けるようになればいいなという考えでしょうか。

吉本委員：できるだけ多くの方に参加していただいて、健康づくりを兼ねて、さらに防犯も兼ねるという取り組みは重要かと思えます。

柴田会長：たくさんテーマがあるけれども、それを掛け合わせることでよりよくなるよということは、この懇話会でずっとやってきたことなので、ひとつの実践になるのかなと思います。村山委員いかがでしょうか。

村山委員：色々な事業もコロナのせいで中止と言わずに、SNSを活用したり、なんでも考えてやれば解決するものもあるんだなと感じました。先ほどの幸田まちづくりセンターのパッククッキングですが、生の材料を入れて茹でたりするのでしょうか。

事務局：幸田まちづくりセンターでは3年ほど前から防災宿泊訓練ということで、公民館で子ども達向けの宿泊訓練を実施していたのですが、今年度はコロナ禍であり、LINEを使って実施いたしました。調理方法としては、120℃ぐらいまで溶けないようなジップで閉まるビニール袋を二重にして、中に細かく切った野菜やウィンナー、カレールーをひと欠け、水を100cc入れて湯煎で調理しております。鍋底

に触れますと破けますので、鍋底にお皿を敷いたり、ざるを入れて直接鍋に触れないように調理をしてくださいとお願いしたのですが、リモートなのでどうしても失敗し、袋が破れてスープカレーになってしまった事例もございました。

柴田会長：ご説明ありがとうございました。では、島田委員いかがでしょうか。

島田委員：色々制限されてできない中、みなさん工夫されていて、とても感心しているところです。

柴田会長：ありがとうございます。では、永井委員いかがでしょうか。

永井委員：私は自然・環境分野で出席しているのですが、南区は豊かな資源があって、色々な生き物がいます。また、人吉の災害でもプラスチックごみが山のようになっていて、対策をしなければいけないのはご存じの通りかと思います。色んな事業があって、私もこれまでたくさんのイベントを行ってきましたが、なかなか参加が少ない、ようは底上げしなければならない、数を増やさなければならない。一斉清掃等に関心を持っていただいて、自分の生活ばかりで地域環境やごみは関係ない、水がどこに流れていくかも関係ないという人が多くなって、とにかくそういったことを知ることで防災に繋がると思います。鳥の声と川のせせらぎ、風の音が聞こえるこの豊かさを体験できるように、ウォーキングと併せて、先ほど言いましたように参加が少ないので、地域色を組み合わせ、環境とかそういった項目も入れていただけるといいなと思ったところです。

柴田会長：ありがとうございます。では堀川さんいかがでしょうか。

堀川委員：私は子育て分野で出席させていただいているのですが、先ほども出ましたが、12番「家庭訪問型子育て支援事業」は、若いお母さんで、これで救われたという方が実際いらっしゃいます。私は校区では子育てサークルを行っているのですが、そこに出てこられる方は、割と元気な方達で、私はその方々を巻き込んで、困っている方には声をかけてあげてねとか、そういった情報があったら教えてねとか、活動をしているところです。この育児サークルはこのコロナ禍の中で2カ月半ぐらいいはお休みしました。その後はZOOMを使って講演を実施したり、少人数ではありますが、やろうと思えばできるんだねと話していました。そういった輪を、うちの校区だけに留まらず、色んなところに広げていけたらいいなと思っています。コロナ禍ではありますが、工夫しながら、繋がられる役割があるのかなと考えて、行動していけたらいいなと思います。

柴田会長：ありがとうございます。質問させていただきたいのですが、ZOOM はとてもいいと思うのですが、逆に集まった時に、今日みたいに換気するとか、マスクもそうなのですが、何か工夫されたこととかありますか。

堀川委員：集まるときは今回のような健康表のようなものも利用しますし、集まった方をあとで追えるように cocoa のアプリを全員に入れてもらっています。コロナ禍で集まるどころや、小さな赤ちゃんを抱えて出ていくところがないということでしたが、たまたま私の校区では地元の公民館を利用しているので、熊本市のコミセンなどとは違い、割と自由に使えたというのも開催できた大きな理由かなと思います。

柴田会長：ありがとうございます。今後の参考に質問させていただきました。では、正源司さん、今日初めてかと思いますがいかがでしょうか。

正源司氏：今回事業者等の分野ということで、栗田委員の代理で参加させていただいております。私が一応事業者等の分野で出させていただいているのですが、12 番「家庭訪問型子育て支援事業」はすごい取り組みだなと。ただ私が内容をあまり知らないのでも 2 点質問したいのですが、まずどのようにして対象となる家庭をピックアップされているのか、そして、訪問による支援ということで児童相談所と重なる部分もあるかと思いますが、児童相談所と共同でされてらっしゃるのか、その 2 点をお聞きしたいです。

事務局：対象者のピックアップにつきましては、乳幼児健診で行うお話や指導を通して、不安がある家庭かどうか把握する場としております。また、児童相談所との共同かどうかということですが、こちらの事業の対象者については、通常の保健師の母子保健活動の中で、専門的な支援が必要でない家庭を中心に実施しているものでございまして、不安のレベルがあまり高くない、専門的な支援が必要でない方が対象ということになりますので、児童相談所との共同では今のところ実施しておりません。

柴田会長：この事業については、未然に防ぐ取り組みという事かと思います。では平井副会長いかがでしょうか。

平井副会長：富合校区では昨年の台風時の避難行動について、自治会を中心にアンケートを実施しました。項目が 8 項目あり、まず家族構成で、2 人というのが 27%で一

番多かったです。次に、今回の台風で避難したかどうかで、避難したというのが22%と大変少なかったです。そして次の避難した場所というのは、富合校区は3カ所避難場所があるわけですが、その利用が案外少なかったと。どこが多かったかというところと校区外の親戚知人宅というのが25%で、3カ所の避難場所については少なく、その避難場所に避難してきた方も校区外の方が多かったというように聞いております。次に避難した理由については、テレビで情報を知ったという方が一番多かったようです。次に避難の手段はマイカーが多く、次の避難しなかった理由については、自宅が安全というのが63%ということでした。次に備えたものについては、水が一番多かったようです。その他の意見として、250個ぐらい意見が上がってきております。それらを自治会で検討しまして、こういった冊子でまとめております。調査や集計は自治会で行いましたが、編集とかすべて富合まちセンで行っていただきました。今後これを活かさなければいけないということで、避難所運営委員会もありますので、そういったところで今後活かしていきたいと考えております。

柴田会長：ありがとうございました。ちょうどそのことをお伺いしようかなと思っていました。非常に貴重なデータだと思います。ご説明いただきありがとうございました。では、全員からご意見をいただけたので、次に移りたいと思います。今年度を踏まえて、来年度の事業計画がございますので、こちらについて事務局からご説明をお願いします。

②令和3年度南区まちづくり推進事業及び南区復興支援自治推進事業の事業計画について
【資料4、資料5、資料6に沿って事務局から説明】

柴田会長：ありがとうございました。来年度の計画について、みなさまからご意見いただきたいと思います。何かご意見やご質問があればお願いします。

平井副会長：資料5の7番「南区いきいきスポーツ大会開催経費」についてご質問いたします。主体となる実行委員会のメンバーはどのような方々を予定されておりますでしょうか。

事務局：この大会はずっと続いている事業でございますが、実行委員につきましては、各校区の代表のスポーツ推進委員の方をお願いしているところです。併せまして、実行委員会の事務局の中に総務企画課長がメンバーに入っております。

平井副会長：実施種目がミニバレーとグラウンドゴルフということですが、この種目だと高齢の方が対象になります。私が思うのは、熊本県民体育大会が行われているのはご存じかと思いますが、それは郡市対抗でやっておられるわけです。その中で一番大きな町である熊本市が勝つのは当たり前のことで、そういったものを南区として実施できないかと。競技的なスポーツを通して交流を図るというのも大切ではないかと思っております。このスポーツ大会は体協主催で実施されていますが、このままでは活性化が図られないのではないかと思っておりますので、ぜひ体協と協議いただいて、進めていただけたらと思っておりますのでよろしくお願いします。

事務局：今いただいたご意見につきましては、まずスポーツ振興課でそれぞれ各校区のスポーツ推進委員がいらっしゃいまして、その中で南区では南区の校区をあわせたところのスポーツ推進ということで、イベントを年 1 回開催されているかと思いません。色んなスポーツをそこに集約させながら、子供から大人まで楽しめるスポーツをということで考えていらっしゃいますので、そちらにもご意見をお伝えしたいと思えます。

柴田委員：ありがとうございます。ほかにご意見はございますでしょうか。

宮崎委員：先ほどのスポーツ大会について、スポーツでも食でも健康でも、まちづくりの入口としてはどこでも、みなさんの関心があるところでいいと思っていて、今回その入口がさらに広がったなという感じが見受けられました。スポーツ大会を南区でやられるわけですが、例えばそれぞれのまちセン単位で合同チームを作ってもらって、わがまち根性ではないですが、ライバル意識を持って、対抗心も燃やして地域住民を盛り上げる、鼓舞するような、そういった仕掛けも必要なのかもしれません。先ほど活性化をどうしたらいいかというお話がありましたが、今回から加わった、6 番まちセン合同の「おいしい南区魅力発信」のレシピコンテストやフォトコンテストとか、情報発信のツールを作成ということですが、私が知る限りでは、南区役所のフェイスブックでの情報発信が主だと思います。それに加えてフォトコンテストになると、写真がメインになりますので、インスタグラムの活用だとか、新しい SNS も含めて色々あると思えますので、そういったものにも柔軟に対応していただけたらと思えます。私事で恐縮ですが、このコロナ禍の中で南区まちづくり懇話会がなかなか開けなかったのも、私と同世代の若い 20 代の南区民のみなさんに対して、この事業がどれだけ伝わっているかと思ひまして、若者バージョンのまちづくり懇話会のような、少人数で 10 数

人ではありますが、やらせていただきました。こういった事業をやってるんだよと説明したところ、多くの20代のみなさんは、こんなものがあるんだ、こんなスポーツ大会をやってるんだということだったんです。全ての事業にせっきやく予算を付けているわけですから、しっかり情報発信を、特に若い人達はなかなか市政だよりを見ませんし、今熊本市のLINEがあって、結構情報発信をしています。これはコロナの感染者数などを毎日送ってくれますし、それ以外にも、ぜひまちづくり関係でこういったイベントありますよとか、お知らせも併せて発信していただくと大変助かるし、若い世代も関わりやすいものになると思いますので、ぜひ情報発信のところを工夫していただけるといいかなと思います。

柴田会長：ありがとうございます。最後におっしゃっていただいた情報発信は非常に重要で、そこは共通してぜひ取り組んでいきたいなと思います。ほかにはなにかご意見はございますでしょうか。

正木委員：情報発信と似たようなことになりましたが、6番「地域団体向け出張 SNS 講座経費」とありますが、モデル事業として南部まちセンの回数が多くて、その他の校区が全体で15回ということで、その他のまちセンはこのモデル地区のようにSNS講座に関わられないのかなと思ったのですがいかがでしょうか。

事務局：こちらは南部まちづくりセンターで昨年から計画をされていたもので、南部まちづくりセンターでは先行してLINEやフェイスブックなど実施されておりますので、まずは南部まちづくりセンターでの実施を計画しているところです。今回はまず慣れていただくということを目的としておりますので、引き続き事業を継続し、今後に向けて着実にやっていきたいと思っております。公民館事業などでも計画しているところがあるかと思っておりますので、それも活用していただきながら、地域団体の皆様には、こういったSNS事業に関して協力していただきたいと考えております。

正木委員：これがうまくいけば、校区のLINEとかも作りやすくなるのかなと思ったので質問させていただきました。

事務局：おっしゃるとおりで、ぜひ全体に広げていきたい、発信していきたいと考えております。

柴田委員：これも広くやる場合と、校区の協議会の役員でLINEを使いたいとか限定的な

方方でやる場合と色々あるかと思います。そのへんも工夫していただきながら、これは結構重要な事業になってくるかと思いますので、しっかりやっていただきたいなと思います。ほかにご意見はございますでしょうか。

北岡委員：9番「地域で健康増進事業」とありますが、私は日ごろから健康より大切なものはないと考えています。運動とか、そういったことはよく出てきますけれども、食に関する、食べ物がいかに大切か行政でも力を入れてやってもらいたいなど。食べ物は自分自身の命を支えているわけで、案外みなさまは無頓着に何でも食べたり飲んだりするわけです。なので、行政側からこんなものはいけませんよとか、行政は色々な人がいますからできないこともあると思いますけれど、言わないといけないことは言わないと健康にはなれないと思います。スポーツも大切ですが、私自身の話をすると、健康の大切さを伝えたいと思って、畑を無償で提供してじゃがいもを作っています。なぜそういうことをするかというと、食の安全を伝えたいということです。しかしなかなか伝わらない、じゃがいもを作って楽しいというのはもちろんいいのですが、栽培の体験が終われば、もとのように安いものやレンジでチンするようなものを食べるということになります。健康増進事業として取り組んでいただくのならば、行政でも少し考えていただけないかという意見です。よろしくお願いします。

柴田委員：ありがとうございます。この健康増進もそうですし、先ほどのスポーツ大会もそうですが、今の農業とか、食と健康とか、組み合わせが可能で、可能性がある部分かと思います。しかも今はコロナ対策をする必要があるわけで、スポーツ大会も多分通常どおりでは開催できないので、何らかの工夫をしないとできないでしょうし、健康増進事業も夏休み期間中にラジオ体操をやるということですが、今年は夏休みのラジオ体操ができなかったわけで、なぜできなかったのかということ踏まえて、企画、計画していただきたいと思います。重要なお指摘ありがとうございました。

最後に私からで、復興支援自治推進事業について、これは市全体で予算を組んでいただいて、南区でも実施していたわけです。今年度の報告の中でも、中止が多くて、特に先ほどの健康子育てとか、仮設住宅入居者、退去者の支援とか、災害公営住宅入居者交流とか、特にサポートが必要な方々の事業が中止となりました。来年度は予算が少なくなってきた中で、歯と口も重要かと思いますが、仮設住宅入居者退去者支援事業は内容を検討中ということでしたので、ここは今年度出来なかったことも踏まえて、ぜひ重点的にやっていただきたいなど、ご意見申し上げておきたいと思います。では、南区長から一言いただきたいと思います。

村上区長：本日は長時間にわたり、活発なご意見をいただき誠にありがとうございました。

今年度はこれが対面での開催が初めてということで、たくさんのご意見をいただき、十分把握させていただきながら、事業を進めてまいりたいと考えております。先ほどお話がありましたが、熊本地震からの復旧・復興という中での防災力の強化の事業についてかなり力を入れておりますし、また、復興推進経費にあります仮設住宅入居者退去者のみなさまの交流会といった地震に関連した事業、そしてコロナ禍の中でこういった事業を展開していくか、そして避難所についてもコロナ対策しながらどのように安全に運営していくかというのも交流事業の中に組み込んでおります。また、SNS、ICTを含め、今からどうしてもそういった方向になっていきますので、行政から地域の方々にSNSを使って情報発信をして、対面で会わずに情報提供できるような形の第一歩にしたいというふうにも思っております。また、各地域の団体の皆様とこうやって共同でやっていくんだ、やはり自助共助という、もちろん公助も出てきますけれども、そういったところを結びつけるような事業と、そして、委員の皆様から色々なご意見をいただいた中での事業の展開ということを踏まえて、南区の27事業を実施していると考えているところです。5つの区の中でも27事業実施するというのは南区だけで、少ないところは10数個というところもありますが、6つのまちづくりセンターと、総務企画課が一緒になって対応してやっていきたいと考えておりますので、どうか皆様方にも地域で行われる事業を見ていただいて、こうすればよかったとか、そこでご意見をいただくと、更に次の年度の事業に結びついていくのではないかと考えたところです。皆様にはご迷惑をおかけするかと思いますが、職員一同頑張っただけでまいりますので、ご協力をお願いいたします。

柴田会長：ありがとうございました。区長がおっしゃっていただいたとおり、今年度は未経験の状態だったので、中止ということが言えたと思うのですが、来年度はそうも言えなくなるのではないかと、どうしてもっと工夫して実施できなかったのかということはこの懇話会でも話をしないといけなくなるので、ぜひ工夫していただきながら、もちろん感染状況にもよりますが、全て実施できるといいなと思います。

本日はたくさんのご意見ありがとうございました。事務局へお返しします。